

## 国際交流員通信 6

### 「MY BEST 10」

皆さん、お久しぶりです。王涛です。

時間が経つのは早いものですね。私の一年間の国際交流員としての生活もいよいよ終わりが近づいてきました。4月初めには中国へ帰国する予定です 😞

この一年を振り返ると、新しい環境の中で、毎日さまざまなことに会い、いろいろなことを学びながら過ごしてきました。たとえば最初の頃、課長の日本語がなかなか聞き取れず、「日本語できると思ってたが、実はできていない？」としばらくの間自分を疑ったこともありました。（後に分かったのですが、実は課長が方言で話していたのです。どおりで聞き取れないわけですね。）

一方で、日本での生活に少しずつ慣れていく中で、自分の中の「常識」も少しずつ変わっていきました。最初は驚いていた「リンゴ1個200円」という事実も、今ではすっかり受け入れられるようになりました。

そこで今回は、下関での生活の中で特に印象に残ったこと、私の個人的な「ベスト10」をご紹介しますと思います。順位はつけていませんので、どうぞ気軽にご覧ください 😊



## いきいきシニア 80歳でも講座に通うなんてすごい！

私の仕事の一つ、「かんたん中国語講座」に参加してくださるのは比較的年配の方が多です。とはいえ、名簿に「70代」「80代」という年齢を見たときの私の驚きは、皆さんの想像以上だったかもしれません。日本の高齢化については以前から耳にしていますが、実際にお会いしてみると、皆さん本当に私のこれまでのイメージを大きく超えるほど元気いっぱいでした。

というのは、中国では70歳を過ぎた方が外で積極的に活動している姿をあまり見かけないからです。多くの場合、家でゆっくり過ごしたり、病気で家族の世話を受けていたり…という印象が強いのです。毎日散歩に出かけるだけでもすごいこと、ましてや講座に通って勉強するなんて、私にとっては想像できなかったのです。

この違いは、講座の教材を作っているときにも感じました。例えば、相手のお父さんが60歳だとわかった時、「まだお元気ですか？」と聞くという会話を作ったことがあります。中国では60歳というともうかなり年配という感覚があり、高血圧などの持病を持つ人も多いため、「まだお元気ですか？」と聞くのは自然で、失礼でもありません。

ところが日本では、60歳はまだまだ元気な年代だそうです。「まだお元気ですか？」と聞かれると怒るかもしれません。こうした「高齢」に対する感覚の違いは、日本に来なければ絶対一生気づけなかったと思います。

日本のシニアの方々、健康であるだけでなく、「生涯学習」という考え方もしっかり根付いていますね。皆さんに大きな拍手を送りたいです！ 🙌



## クラクションを聞いたことのない街

ここなら、私でも運転できそう！

下関で毎日穏やかに過ごしているうちに、ふと気づいたことがあります——下関では一度も車のクラクションを聞いたことがありません。

クラクションを鳴らさないだけでなく、車同士もとてもよく譲り合っています。道路に出ようとしていると、走ってくる車を見てそのまま待ち、相手を先に通す場面もよく見かけます。もちろん、車は歩行者にもきちんと道を譲ってくれます。また、信号のない交差点でも、しっかり減速して周囲を確認してから通過します。これは、私が自動車学校で習ったときの「お手本のような運転」そのものです。

そのたびに思うのです。もし下関で運転するなら、私でもきっと大丈夫だろうな、と。

実は私は中国で運転免許を持っていますが、実際にはほとんど運転していません。中国は人も車もとても多く、皆が急いでいるため、クラクションを鳴らして前の車を急かすこともよくあります。また、道路に入るときに譲って待っていると、次から次へと車が来てしまい、思い切って流れに入らないと、いつまでも道路に出られないこともあります。

日本のような運転しやすい環境をととても羨ましく思いますが、中国ではなかなか同じようにはいきません。帰国したら、日本の静かで運転しやすい街を懐かしく思い出しながら、絶え間なく続く車の流れの中で運転できるよう、少しずつ頑張りたいと思います。



## いろいろな100円ショップ

手頃価格で品質そこそこ、気がつけば一度で1万円も！

日本に来たばかりの頃は、何もかもが高く感じました。交通費も外食も買い物も高い…そんな中、私の日本での生活のスタートを助けてくれたのが「100円ショップ」でした。値段はとても手頃なのに、品ぞろえは驚くほど豊富。とにかく本当に「コスパ抜群」、まさに庶民の味方です！

特に「ダイソー」、気がつけばテーマソングまで歌えるようになってしまいました。(♪ハッピー プライス パラダイス～よいしょ！♪)ほかに「キャンドゥ」や「セリア」など、いろいろなお店があり、それぞれに便利で面白い商品があります。一年間の生活には本当にありがたい存在でした。

また、100円ショップを通して、日本のある特徴にも気づきました。どんなに小さな困りごとでも、それを解決するための専用の商品があるのです。例えばキッチン用品。掃除道具だけでもたくさんあり、ちょっとした隙間や細かい場所の掃除にも、それ専用の道具があります。こうした細かな不便に目を向けて、それを解決する商品を作る発想は、日本ならではの、本当にすごいと思いました。

ただし、品ぞろえが豊富すぎるのが唯一の問題かもしれません。気づけば「あれも欲しい、これも欲しい」とカゴに入れてしまい、レジに行ったら合計が1万円を超えていた…

百円ショップ、恐るべし！



## 10 日以上有休、残業すれば代休あり 帰国後、元の職場環境に適応できるのか…

この一年、下関市役所で働くという貴重な経験をさせていただきました。実際に働いてみると、さまざまな面で驚きがありました。

例えば、入職した時点で年間 10 日の有給休暇があり、残業をすれば残業代、私の場合は代休をいただくこともできます。プライベートの時間は基本的にきちんと守られており、突然仕事の連絡が来ることもありません。会議でも、上司の発言はとても簡潔で、長々と続くことはありません。

日本の公務員の皆さんにとっては当たり前のことかもしれませんが、中国では事情がかなり違います。例えば休暇制度ですが、新入職員の年休は年間 5 日から始まり、10 年働いてようやく 10 日になります。その代わり、短い時間の休みは比較的取りやすく、急用がある場合は半日以内であれば課長の許可だけで休むことができ、年休を使う必要もなく、給料にも影響しません。ただし、休暇中であっても仕事の用事があれば連絡が来ることは珍しくなく、場所や時間に関係なく対応することもあります。

つまり、それぞれに良い点もあれば、少し大変な点もあります。とはいえ、全体として見ると、私はやはりここの職場環境をとても羨ましく感じました。

帰国したあと、果たして以前の職場環境にうまく適応できるのか… 🤔



## ドリンク飲み放題つきカラオケ 一人で 5 時間歌い続けるのは嘘じゃないよ！

日本での生活を振り返ってみると、自由時間の 8 割くらいは一人で過ごしました。そんな私の一人時間の最大の楽しみが「歌うこと」です。私にとって、日本のカラオケはまさに天国！できることなら住みたいくらいです！

まず、私はアニメソングが大好きです。日本では好きなだけアニメソングを歌うことができます。そして、日本のカラオケでいちばん驚いたのが「ドリンク飲み放題」です。これは本当にうれしいポイントでした。さらに、平日は料金がとても安いです。5 時間以上楽しんでも、1000 円ちょっとで済むこともあります。一人カラオケだと少しだけ高くなりますが、それでも私にとってはまったく問題ありません。

日本に来てからは、大体月に 2 回くらいのペースでカラオケに通っています。点数を上げるためにちょっとしたコツも研究していて、今では得意な曲なら 96 点くらい取れるようになりました。でも、それ以上はなかなか伸びません…100 点を出す人はいったいどうやっているのでしょうか 😲

ちなみに、中国のカラオケは部屋が広く、内装も豪華なところが多いです。ただ、飲み物は飲み放題ではなく、注文するとかかなり高めです。どちらかというと「歌う場所」というより、みんなで集まって楽しむ社交の場という雰囲気です。

ですので、一人で5時間ひたすら歌う私には、日本のカラオケのほうがぴったりです！



## 無理に飲ませない飲み会 梅酒と獺祭が好き！

以前の国際交流員通信でも触れましたが、中国には「酔いつぶれるまで帰らない」という言葉があるほど、お酒をたくさん飲む文化があります。アルコール度数の高いお酒を次々に飲み、かなり酔うまで続くことが多いです。私にとっては苦手、正直 😞 でした。

その点、国際課での飲み会では無理にお酒を勧められることがなく、自分のペースでゆっくり楽しむことができます。私も度数の低いお酒を少しずつ味わいながら、三杯くらいなら気持ちよく飲めるようになりました。

日本ではよく「とりあえずビール」と言いますが、私はいつも「とりあえず梅酒」です。もともとお酒にはほとんど興味がなく、味見もしないくらいでしたが、日本に来ていろいろ試してみるうちに、自分の好きなお酒が分かるようになりました。これは私にとって、ちょっとうれしい発見でした。

獺祭を好きになったのは、神戸の友人が私の家に泊まりに来た時でした。獺祭の飲み比べセットを買い、さらにフグのひれも用意して、一緒に楽しみました。その夜が楽しかったからなのか、それとも温かい獺祭の効果なのかは分かりませんが、翌朝は驚くほどすっきり目が覚めました。普段はあまり寝つきがよくないのですが、その日は今までにないほどよく眠れたのです。それ以来、獺祭はすっかり私のお気に入りになりました。

こうしてお酒を楽しめるようになったのも、「無理に飲ませない飲み会」のおかげです。ありがたいです 😊



## にぎわい実店舗と商店街 「街に出て買い物する楽しさ」を再発見！

中国は電子決済がとても普及していて、ネットショッピングも非常に発達しています。私自身も、ほとんどのものをインターネットで買う生活にすっかり慣れていています。ところが、日本で生活しているうちに、だんだん実店舗で買い物をすることが増えていきました。

実店舗の一番の魅力は、商品を実際に見て、触れて選べることです。そして、お店をぶらぶら見て回っていると、「こんな商品もあるんだ」と思わぬ発見があるのも楽しいところです。こうした小さな発見こそ、買い物の楽しさだと感じました。

特に、日本の屋根付きの長い商店街にはとても驚きました。中国では最近あまり見かけなくなっているからです。人々がにぎやかに集まって買い物をしている様子を見ると、街の生活の温かさを感じます。スマートフォンを見ながら一人でネットショッピングをするよりも、外に出て歩きながら買い物をするほうが、ちょっとした運動にもなりますし、「遊び」にもなれます。

日本での生活のおかげで、私は「街に出て買い物をする楽しさ」を改めて知ることができました。



## お風呂文化・温泉文化 帰国してもこの習慣を続けたい！

最初は、一人暮らしでお風呂に入るたびにお湯を流してしまうのがもったいない気がして、あまり湯船につかっていませんでした。でも、だんだん慣れてきましたし、日本には入浴剤の種類がとても多くて、お風呂の時間が楽しみになりました。

中国では、家で湯船につかる習慣がなく、家庭に浴槽がないことが多いです。そのため、入浴剤の種類もそれほど多くありません。例えば中国にも無印良品の店がありますが、そこには入浴剤が売られていないのです。なので、帰国するときには日本でいくつか買って帰ろうと思っています。

温泉が好きになった理由もあります。温泉に入ると、その後三日ほど肌がつるつるになるのです。これには本当に驚きました。それ以来、旅行に行くときは、できるだけ半日くらい温泉に行く時間を入れるようになりました。

ちなみに、こうした温泉文化に比較的早く慣れるのは、私が中国の北方の人だからと思います。北方では大衆浴場の文化があり、みんなで一緒に入浴することにあまり抵抗がありません。一方で南方では、人前で体を見せることに抵抗を感じる人が多いそうです。

さらに、お風呂にはもう一つうれしい効果があります。それは、生理痛の緩和にも役立つことです。中国では特に女性は冷たい水を飲みすぎると体に良くないと言われていました。日本では氷の入った飲み物を飲むことも多いですが、それでも生理痛がひどくならなかったのは、きっとお風呂で体を温めているおかげだと思っています。

帰国してからも、この「お風呂に入る習慣」を続けていきたいと思っています！



## やさしい国際課 楽しい一年を支えてくれた、一番大切な存在！

日本に来る前、私がいちばん心配していたのは言葉ではなく、人間関係でした。下関市の国際課に来る前には、他の自治体で働く国際交流員の中には職場でうまくいかなかったという話も耳にしていたからです。実際、昨年CIR中間研修でも、自分の自治体では国際交流の経験が少なく、イベントを提案してもなかなか認めてもらえないという悩みを話す交流員もいました。また、担当者や他の国の交流員とのコミュニケーションに苦労しているという話も聞いたことがあります。

しかし、ここに来てみると、何もかもがとても順調でした。生活面では、住む家を用意していただいただけでなく、家賃の補助まであります。仕事の面でも、青島市との友好交流の取り組みはすでにしっかりと形ができていて、市民向けの中国語講座や文化講座も、いつもスムーズに進めることができました。

そして何より、国際課の皆さんが本当に優しいのです。旅行から帰るとお土産を分けてくれたり、食事会のときには課長からご厚志をいただいたりします。最初の担当の方はよ

く車でいろいろな所に連れて行ってくださり、二人目の担当の方はとても真面目で頼もしく、困ったことがあるといつも助けてくれました。さらに、おいしいみかんをよく分けてくださる同僚もいて……国際課の皆さんのおかげで、この仕事は本当に楽しく、やりがいを感じる事ができました。

中日関係が緊張している今、こうして穏やかに生活できたことは、とても貴重な経験でした。この一年の時間と、ここで出会った温かい人たちのことは、きっと一生忘れないと思います。この大切なご縁が、これからも長く続いていくことを願っています。



## わたし 引きこもり、旅人になる

日本に一人で来て働くことができた私、よくやった！

日本で一生懸命生活してきた私、よくやった！

最後の三か月、怠け心に負けず必死に旅行した私、よくやった！

ありがとう、私！

一年という時間はあっという間でしたが、その中には本当にたくさんの出来事や発見がありました。どれも私にとって大切に、忘れられない経験です。そして何より、多くの方に支えていただいたことに、心から感謝しています。

最後に、国際交流員通信を読んでもらった皆さま、本当にありがとうございました！  
またどこかでお会いしましょう！